

ORACLE MASTER 完全ガイド





_ INDEX

オラクルユニバーシティ本部長ご挨拶	3
次世代のエキスパートへ	4
ORACLE MASTER の歴史	5
ORACLE MASTER の種類	6
ORACLE MASTER 資格概要	7
ORACLE MASTER 資格取得フロー	8
お申し込み方法	9
Platinum 取得のポイント	10
Gold 取得のポイント	12
Silver 取得のポイント	14
Bronze 取得のポイント	16
取得者事例	18
取得特典	20
FAQ	21
その他の研修サービス	22



ご 挨拶

平素より、オラクル製品、そしてオラクル研修サービスをご愛顧いただきありがとうございます。

弊社のデータベース認定資格、ORACLE MASTER は、1997年の認定開始より10年、多くの方々にご理解・ご評価を頂戴し、のべ15万名にわたるお客様にORACLE MASTER 資格をご取得いただくという、ありがたい結果となっております。

より高度な、かつ専門的なスキルが求められる昨今のトレンドを受け、より一層、多くのお客様にORACLE MASTER の付加価値を再認識いただいております。とりわけ、深い知識と理解力はもちろんのこと、高度な実践力を実技試験によって認定いたします Platinum 試験は極めて高い評価を頂戴し、Platinum 資格をお持ちの方は、業界の第一線でご活躍をされています。

今回、この「ORACLE MASTER 完全ガイド」を通じまして、今後ORACLE MASTER 資格取得を目指される方、および企業において、IT人材の育成に携わられる皆様に、少しでも学習・お仕事のお役に立てればと思っております。

今後とも益々多くのお客様にORACLE MASTER の価値をお役立ていただけますこと、心より願っております。

日本オラクル株式会社
執行役員
オラクルユニバーシティ 本部長

保々 雅世

次世代の**エキスパート**へ

ITスキルをキーワードにキャリアパスを
お考えの方へ。
ORACLE MASTERの価値をお届けします。

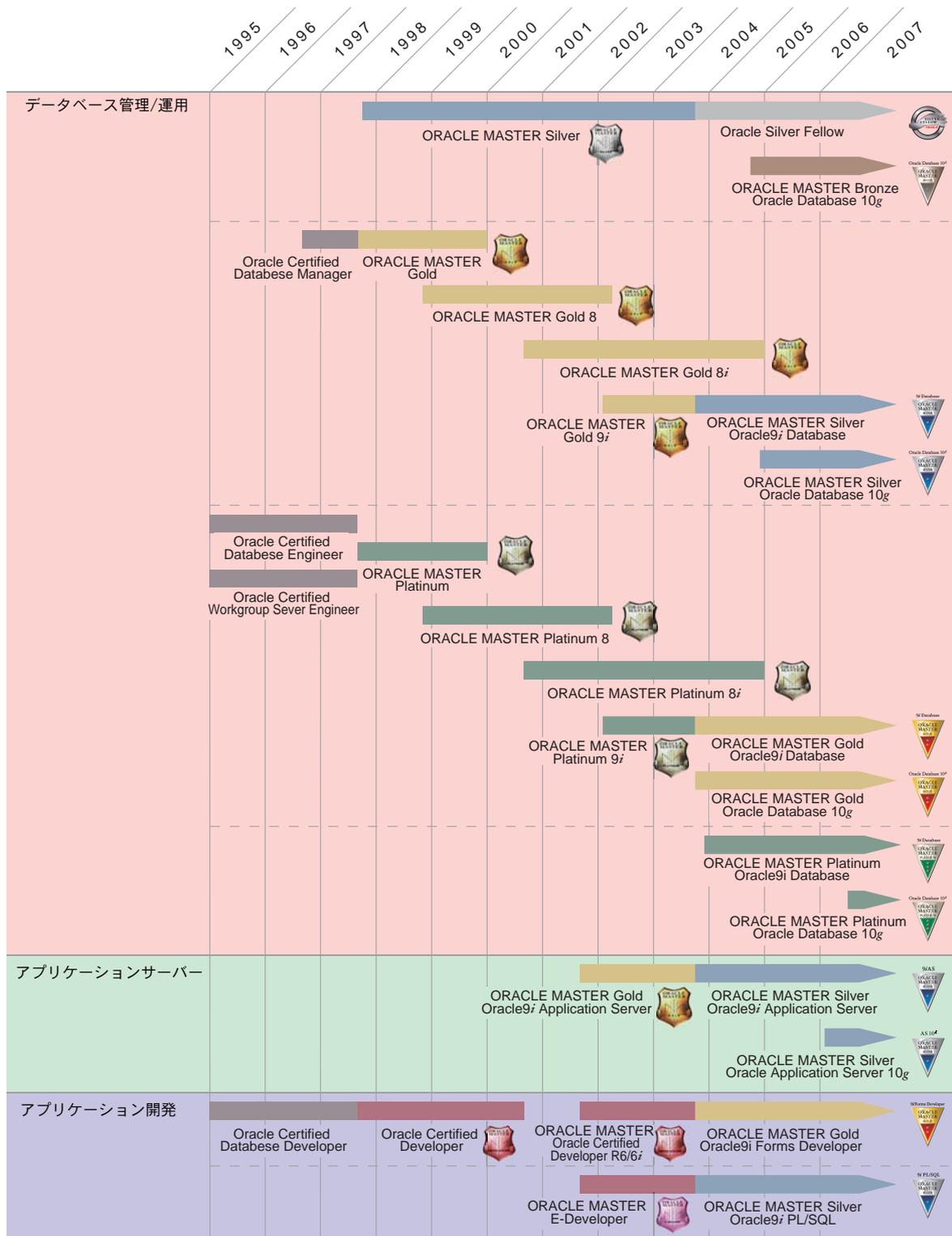
ORACLE MASTERは、こうした
次世代情報プラットフォーム
に関するITスキルを証明し、エキスパートと
してのキャリアをご支援します。

Grid Control、Real Application Cluster
など、次世代のテクノロジーを備えた情
報プラットフォーム Oracle Database 10g。ミドル
ウェアの統合により高度なビジネスインテリジェンス
を実現する Oracle Application Server 10g。そし
て、これらのテクノロジーを支える開発ツール製品。

次世代のエキスパートへ。ORACLE
MASTERがお届けします。

ORACLE MASTER の歴史

日本オラクル株式会社は、1997年9月より ORACLE MASTER 資格をご提供して参りました。2003年には、全世界共通の認定資格 Oracle Certification Program にも準拠し、のべ15万名のお客様に ORACLE MASTER をご取得いただき参りました。2006年、10周年を迎え、実技試験の最高峰 ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g も加わり、益々のご好評をいただいております。



ORACLE MASTER の種類

ORACLE MASTER は 4 つのレベル、3 つの分野が設けられ、各分野に対する適切な技術認定を行います。ORACLE MASTER は世界共通の技術資格である Oracle Certification Program(OCP) の各資格にも同時認定され(一部対象外)、実務を行う上で指標としてお役に立ていただけます。

4 つのレベル

ORACLE MASTER には、Bronze、Silver、Gold、Platinum の 4 つの認定レベルがあります。



Platinum

トップレベルのエキスパートとして幅広い技術力を駆使し、最適な構築、運用や、適切な障害対象が行えるレベル。

▲エキスパート技術者、プロジェクトリーダー、技術責任者



Gold

技術要素を全般的に理解する上級技術者として、状況に応じた手法の提案や、助言が行えるレベル。

▲チームリーダー、小規模プロジェクトリーダー



Silver

基本的な技術を理解し、より高度な技術者のもとで実践的な作業を行うことができるレベル。

▲各種プロジェクトの技術メンバー、リーダー補佐



Bronze

基本的なコンセプトの操作方法を理解し、より高度な技術者のもとで簡単な操作ができるレベル。

▲各種プロジェクトメンバー、チームメンバー

3 つの分野

データベース運用、管理

Oracle データベースの構築、運用、管理を目的とする認定資格です。Oracle Database10g、Oracle 9i Database の認定資格です。

アプリケーションサーバー運用、管理

アプリケーションサーバーの構築、運用、管理を目的とする認定資格です。Oracle Application Server 10g、Oracle9i Application Server の認定資格があります。

アプリケーション開発

PL/SQL や開発ツールを目的とする認定資格です。Oracle PL/SQL、Oracle Forms Developer の認定資格、及び、Oracle DeveloperR6i/ Forms を対象とした認定資格があります。

ORACLE MASTER 資格概要

資格名	グローバル資格 (※ 1)	試験内容	必要な試験 (※ 4) (※ 7)	受講要件	その他の要件 (※ 4) (※ 7)
データベース運用管理					
Oracle Database 10g					
ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g	OCM	実技試験	ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g 実技試験	2つのハンズオンコース (※ 5)	ORACLE MASTER Gold Oracle Database 10g または ORACLE MASTER Platinum Oracle9i Database 保有者
ORACLE MASTER Gold Oracle Database 10g	OCP	コンピュータによる机上試験	Gold DBA 10g (1Z0-043J)	1つのハンズオンコース (※ 6)	ORACLE MASTER Silver Oracle Database 10g 保有者
ORACLE MASTER Silver Oracle Database 10g	OCA	コンピュータによる机上試験	Silver DBA 10g (1Z0-042J)	-	ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 10g 保有者
ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 10g	- (※ 2)	コンピュータによる机上試験	Bronze SQL 基礎 I (1Z0-017J) ----- Bronze DBA 10g (1Z0-041J)	-	Oracle Silver Fellow 保有者は Bronze DBA 10g (1Z0-041J) のみ
Oracle9i Database					
ORACLE MASTER Platinum Oracle9i Database	OCM	実技試験	ORACLE MASTER Platinum Oracle9i Database 実技試験	2つのハンズオンコース	ORACLE MASTER Gold Oracle9i Database 保有者
ORACLE MASTER Gold Oracle9i Database	OCP	コンピュータによる机上試験	Oracle9i DBA II (1Z0-032J) ----- Oracle9i パフォーマンスチューニング (1Z0-033J)	1つのハンズオンコース	ORACLE MASTER Silver Oracle9i Database 保有者
ORACLE MASTER Silver Oracle9i Database	OCA	コンピュータによる机上試験	Oracle9i DBA I (1Z0-031J)	-	ORACLE MASTER Silver Fellow 保有者
Oracle Silver Fellow	- (※ 2)	コンピュータによる机上試験	SQL (1Z0-011J) ----- Oracle 入門 (1Z0-012J)	-	-
アプリケーションサーバー運用、管理					
ORACLE MASTER Gold Oracle Application Server 10g (※ 3)	OCP	コンピュータによる机上試験	未定 (※ 3)	未定 (※ 3)	ORACLE MASTER Silver Oracle Application Server 10g 保有者
ORACLE MASTER Silver Oracle Application Server 10g	OCA	コンピュータによる机上試験	Silver OracleAS 10g (1Z0-311J)	-	-
ORACLE MASTER Silver Oracle9i Application Server	OCA	コンピュータによる机上試験	SQL (1Z0-011J) ----- Oracle 入門 (1Z0-012J) ----- Oracle9i AS (1Z0-301J)	-	ORACLE MASTER Oracle Fellow 保有者は、Oracle9i AS (1Z0-301J) のみ
アプリケーション開発					
ORACLE MASTER Gold Oracle9i Forms Developer	OCP	コンピュータによる机上試験	Oracle9i Forms Developer (1Z0-141J)	-	ORACLE MASTER Silver Oracle9i PL/SQL 保有者
ORACLE MASTER Silver Oracle9i PL/SQL	OCA	コンピュータによる机上試験	SQL (1Z0-011J) ----- Oracle 入門 (1Z0-012J) ----- PL/SQL プログラミング (1Z0-147J)	-	Oracle Silver Fellow 保有者は、PL/SQL プログラミング (1Z0-147J) のみ
Oracle Certified Developer	OCP	コンピュータによる机上試験	SQL (1Z0-011J) ----- Oracle 入門 (1Z0-012J) ----- PL/SQL プログラム開発 (1Z0-101J) ----- Oracle Developer R6i Forms 開発 I (1Z0-131J) ----- Oracle Developer R6i Forms 開発 II (1Z0-132J)	-	Oracle Silver Fellow 保有者は、SQL(1Z0-011J) 及び Oracle 入門 (1Z0-012J) 試験を除く 3 科目

※ 1 グローバル資格は、Oracle Certified Master (OCM)、Oracle Certified Professional (OCP)、Oracle Certified Associate (OCA) の三種類があります。

※ 2 対応するグローバル資格はありません。

※ 3 2006年10月現在、試験の実施詳細及びご提供時期は未定です。

※ 4 別途、移行試験をご受験いただける場合があります。この場合は、受講要件及び受験の前提条件が一部適用外となる場合があります。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

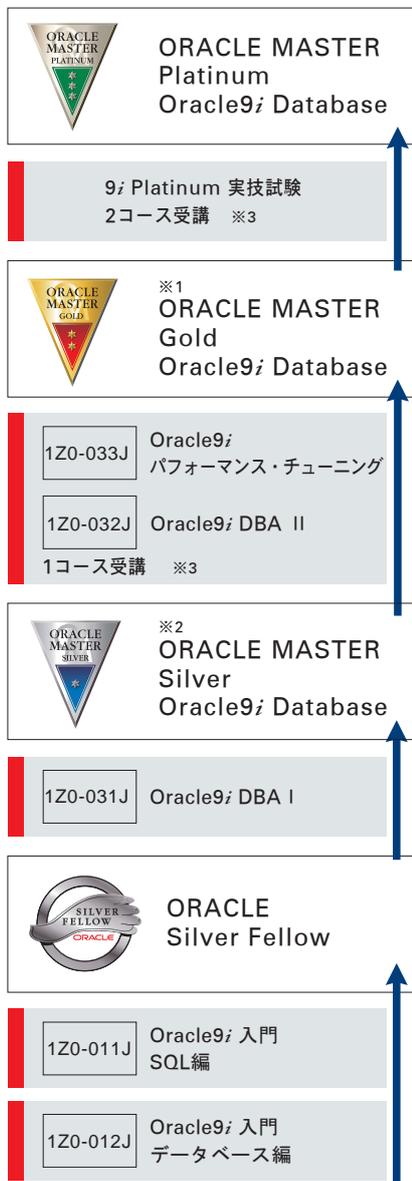
※ 5 ORACLE MASTER Platinum Oracle9i Database 保有者は不要。

※ 6 ORACLE MASTER Gold Oracle9i Database 保有者は不要。

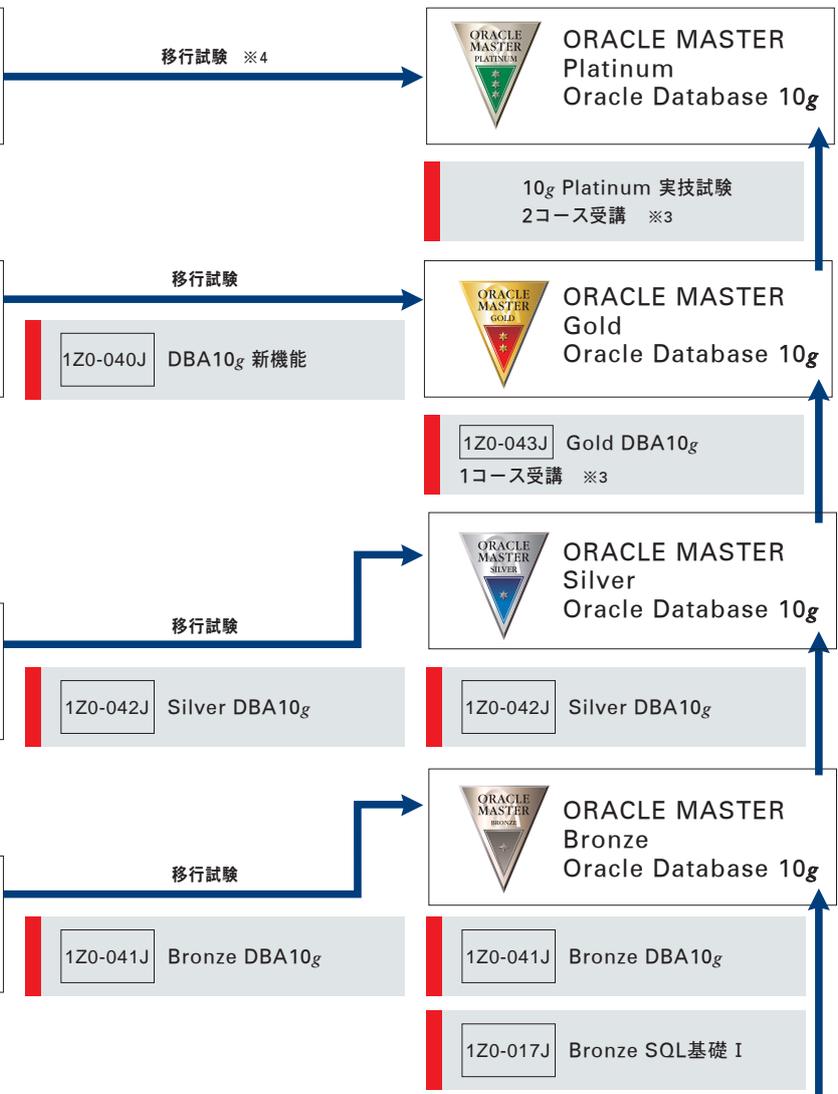
※ 7 Oracle7、Oracle8、Oracle8i 及び制度改訂前の Oracle9i Database 資格をお持ちの場合には、必要試験または前提条件がここに記載の内容と異なる場合があります。詳細は別途お問い合わせください。

ORACLE MASTER 資格取得フロー

Oracle9i Database



Oracle Database 10g



※1 2003年10月改定までは「ORACLE MASTER Oracle9i Platinum」

※2 2003年10月改定までは「ORACLE MASTER Oracle9i Gold」

※3 1class Requirement並びに2class Requirementの詳細は弊社ホームページをご参照ください。

※4 移行試験の開始時期および詳細は未定です。

お申し込み方法

ORACLE MASTER 認定資格試験ご受験について

受験方法とお申込方法について

受験方法は、試験によりお申込方法が異なります。以下をご確認のうえ、お申込ください。

ORACLE MASTER Platinum 試験

日本オラクル直営会場(オラクルテストセンター)
ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 試験は直営会場のみで実施しています。開催会場は主にトレーニングキャンパス渋谷と大阪です。ホームページでスケジュールをご確認の上、オラクルユニバーシティにお申込ください。

<http://www.oracle.com/global/jp/education/certification/>

お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ
TEL : 0120-155-092

ORACLE MASTER 試験(Platinum を除く)

全国のアール・プロメトリック株式会社公認試験会場
全国のアール・プロメトリック株式会社の公認試験会場でご受験いただけます。お申込方法やスケジュール、会場の情報、受験申込書などはアール・プロメトリック株式会社ホームページよりご確認ください。

<http://www.prometric-jp.com>

試験当日について

・試験会場にて受付を行ないますので試験開始の30分前までに試験会場へお越しください。集合時間に遅れる場合は各会場窓口へご連絡ください。

試験当日持参いただく物

- ・写真付身分証明書を1種、身分証明書を1種(計2種)
ご本人様であることの確認のため2種類の身分証明書をご持参ください。2つの身分証明書のうち1種類は写真付きである必要があります。
- ・認定試験受験チケット
お申込時に受験チケットでのお支払をご希望された方は、チケットが無いとご受験いただけませんのでご注意ください。
- ・プロメトリック ID カード
新規の方は試験当日の受付時に登録～発行を行ないますので、お早めにご来場ください。プロメトリック ID が不明の方は、過去にご受験いただきましたスコアレポート(筆記試験除く)にてご確認ください。アール・プロメトリック株式会社 お客様相談センター (TEL : 0120-066-737 祝祭日を除く月～金 9:00～18:00)へお問い合わせください。

キャンセル・日程変更について

ORACLE MASTER Platinum 試験

- ・変更、キャンセルは試験開催の7日前(土日・祝祭日にあたる場合はその前日)17時までには必ず Oracle University までご連絡ください。
- ・7日前(土日・祝祭日にあたる場合はその前日)17時を過ぎての変更、キャンセルにあたっては、所定のキャンセル料がかかります。

ORACLE MASTER 試験(Platinum を除く)

キャンセル、日程変更のお手続き及び規則は、アール・プロメトリック株式会社の規定によります。詳細はアール・プロメトリック株式会社ホームページでご確認ください。

個人情報の取り扱いについて

日本オラクルでは、原則としてお客様に関する個人情報を第三者に開示することはありません。ただし、研修コース、セミナーなどの弊社研修コースが弊社認定会場で開催される場合、お客様の個人情報のうち、出欠確認のために必要な会社名、受講者名を記載した受講者名簿を、認定会場を運営する弊社パートナー

に所定の秘密保持義務を課した上で開示いたします。その他、法令上または行政上の裁判上での手続き過程で要請、または行政官庁からの開示命令を受けた場合は、必要な範囲でお客様に関する情報を開示することがあります。

Platinum 取得のポイント

ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g



学習のポイント

1. 実機を使った動作検証

10gPlatinum 試験では、実機を使った実技スキルが問われます。機能の概要を理解しているだけでは合格できません。テスト内容チェックリストについて、実際に Linux 環境で準備をしておきましょう。

2. Manual セットを使つての準備

10gPlatinum 試験は、限られた時間の中で多くの設定を行う必要があります。基本的なコマンド (create user, create table, create tablespace など) については、十分に習得されることをお勧めします。ただし、全てを覚えておくことは現実的ではありません。試験環境では、オンラインマニュアルセットが用意されています。マニュアルを有効に使って効率よく作業が行えるような準備をお勧めします。

3. Grid Control, Real Application Clusters の設定把握

9iPlatinum 試験と比較して、10gPlatinum 試験で大きく変更された点は 10g のキーワードである Grid Control と Real Application Cluster が追加されている点です。この2つの機能についてセットアップが確実に行えるように準備しておきましょう。

実技試験内容

ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g 実技試験は、2日間に渡り以下の各項目ごとに定められたシナリオに取り組んでいただきます。シナリオ途中で障害が発生することもあり、導入・構築のみならず、障害対応も含めた高度な実践力が求められます。

Day . 1

1. 試験の説明
2. セットアップ・シナリオ
3. データベースおよびネットワーク構成
4. Enterprise Manager 10g Grid Control
5. データベースの可用性の管理
6. データ・ウェアハウスの管理

Day . 2

1. データの管理
2. パフォーマンスの管理
3. Real Application Clusters の管理
4. Data Guard の設定

テスト内容チェックリスト

サーバー設定

- [] データベースの作成
- [] データベース構成のためのパラメータ設定
- [] 各種表領域の作成
- [] 複数の物理デバイスにまたがるデータファイルのストライプ
- [] パフォーマンス最適化のためのデータベース環境設定
- [] 設定ファイルの作成と管理
- [] ネットワーク設定ファイルの作成と管理
- [] リスナーの設定と管理
- [] 共有サーバー接続のインスタンス設定
- [] ネットワークトレースの設定
- [] ネットワークプロセスの管理 (Listener Control ユーティリティ)
- [] 複数データベースへの接続を実現するネットワーク環境の設定
- [] 簡易接続の使用

Enterprise Manager Grid Control

- [] Enterprise Manager Grid Control のインストール
- [] Enterprise Manager リポジトリの設定
- [] Enterprise Manager Grid Control ユーザーの作成
- [] Enterprise Manager を使用したデータベース設定の変更
- [] データベース可用性向上のための Enterprise Manager 設定
- [] ジョブの作成と管理
- [] アラートの作成とモニタリング
- [] 通知の作成
- [] Grid Control と Database Control の実装
- [] 適切な表領域タイプの選定
- [] スケジューラジョブの作成
- [] スケジュールの作成
- [] ウィンドウとジョブの関連付け
- [] プログラムの作成
- [] ジョブクラスの作成
- [] Enterprise Manager Grid Control のインストール
- [] Enterprise Manager Grid Control エージェントの実装
- [] ビジネスニーズに適した Grid Control の設定

データベース可用性の管理

- [] リカバリカタログデータベースの作成
- [] Recovery Manager の設定
- [] Recovery Manager によるデータベースのバックアップ
- [] Recovery Manager によるデータベースのリストアとリカバリ操作
- [] フラッシュバックデータベースのパラメータ設定
- [] フラッシュバックデータベースのログ及び統計管理
- [] フラッシュバックデータベースの操作
- [] フラッシュリカバリ領域の設定

データ管理

- [] ファイングレイン監査の実装
- [] セキュアアプリケーションロールの作成
- [] フラッシュバック問い合わせのための権限付与
- [] Undo データ保存のためのパラメータ設定
- [] ファイングレインアクセス制御の実装
- [] コンテキストの作成と管理
- [] SQL*Loader の使用
- [] トランスポート表領域の実装
- [] 適切なパーティション方法の選定 (レンジ、ハッシュ、リスト、コンポジット)
- [] 適切なパーティションキーの選定
- [] 適切な索引方法の選定 (ローカル、グローバル、プレフィックス、非プレフィックス)
- [] パーティション管理操作
- [] パーティション化された表の索引管理
- [] LOB セグメントの作成と管理
- [] 適切なパラレル度の設定
- [] パラレル操作のためのメモリチューニング
- [] パラレルパラメータの設定

Data Warehouse の管理

- [] 外部表の作成 (Data Loader と Data Pump ドライバ)
- [] Data Pump エクスポート及びインポートジョブの作成
- [] リモートデータベースと連携する Data Pump の実装
- [] レプリケーション、ストリームの実装
- [] マスターレプリケーションの設定と管理
- [] 分散マテリアライズドビューの設定と管理
- [] ストリームレプリケーションの設定と管理

パフォーマンスの管理

- [] Statspack のインストール
- [] 統計情報の取得間隔の調整
- [] モニタされるイベントのカスタマイズ
- [] ADDM を使用した統計情報の解析とパフォーマンス問題の解決
- [] 自動共有メモリ管理の実装
- [] 手動メモリ管理によるメモリのチューニング
- [] 手動での SGA のモニタリングとチューニング
- [] SQL 実行時のメモリ自動管理
- [] work area size パラメータを使用した PGA のチューニング
- [] PGA Advisor の使用
- [] リソースマネージャプランの作成 (アクティブセッション数、最大実行時間)
- [] コンシューマーグループの設定
- [] コンシューマーグループマッピングの設定
- [] サービスの管理
- [] 様々なデータアクセスに対応したオブジェクトの作成と管理 (スキーマチューニング)
- [] SQL Tuning Advisor の使用
- [] SQL Access Advisor の使用
- [] Optimizer 統計情報の収集
- [] 実行計画の解釈
- [] SQL チューニングツールの活用とツールの特徴

Real Application Clusters

- [] Oracle Clusterware のインストール
- [] Oracle Database 10g ソフトウェアのインストール
- [] ASM 障害グループの実装
- [] ASM インスタンスの作成と管理
- [] ASM ディスクグループの作成と管理
- [] 共有ディスク実装のための ASM 設定とクラスターデータベースの作成
- [] アーカイブの設定
- [] プライマリ及び使用可能インスタンスのサービス設定

Data Guard

- [] Data Guard Manager 及び DGMGRL の使用
- [] フィジカル・スタンバイ・データベースの作成と活用
- [] ロジカル・スタンバイ・データベースの作成と活用
- [] 様々な保護モードを勘案したログ転送サービスの実装
- [] スタンバイデータベースとプライマリデータベースの通信を可能にするネットワーク設定
- [] "read-only" での物理スタンバイデータベースのオープン
- [] スイッチオーバーとフェイルオーバーの操作
- [] Data Guard の実装

Gold 取得のポイント

ORACLE MASTER Gold Oracle Database 10g



学習のポイント

本資格は上級レベルのデータベース管理技術者を認定する資格です。効率的な運用に必要なパフォーマンス診断やチューニング、リソース管理およびリカバリに関する知識をしっかりと身につけましょう。試験の出題内容については、各項目の詳細を把握していることが求められています。グローバルゼーション・サポートの使用や診断ソースの見方、フラッシュバック機能も理解していることが必要です。また Oracle Enterprise Manager が持つ各種自動管理機能についても実機を使用し画面の確認をしながらの技術習得をお奨めします。

テスト内容チェックリスト

Gold DBA10g

グローバルゼーション・サポートの使用

- データベースおよびセッションに対する言語依存動作の指定
- 問合せのための言語ソートの指定
- 日付・時刻データ型の使用
- 大文字/小文字の区別、アクセント記号の区別を行わないデータの検索
- NLS 設定情報の取得

Oracle Listener へのアクセスの制御

- リスナーの保護
- 外部プロシージャ・コールに対する構成の変更

Recovery Manager の構成

- Recovery Manager に影響を与える初期化パラメータの設定
- Recovery Manager の永続設定の管理
- 自動チャネルおよび手動チャネルの割当て

Recovery Manager の使用

- BACKUP コマンドによるバックアップ・セットとイメージ・コピーの作成
- ブロック変更追跡の有効化
- LIST、REPORT コマンドによるバックアップの管理

診断ソース

- アラート・ログとトレース・ファイルの理解
- Enterprise Manager を使用したアラートの表示
- 追跡メトリックのしきい値の調整
- トレース・ファイルの場所とサイズの制御

非クリティカル・ファイルのリカバリ

- 一時表領域のリカバリ
- REDO ログ・グループ・メンバーのリカバリ
- 索引表領域のリカバリ
- 読取り専用表領域のリカバリ
- パスワード・ファイルの再作成

データベース・リカバリ

- 制御ファイルのリカバリ
- 不完全リカバリの概要
- Enterprise Manager による不完全リカバリの実行
- Recovery Manager による不完全リカバリの実行
- SQL による不完全リカバリの実行
- RESETLOGS を介したリカバリの実行

フラッシュバック・データベース

- 場面に応じたフラッシュバック・テクノロジーの選択
- フラッシュバック・データベースの構成
- フラッシュバック・データベースの監視
- Enterprise Manager によるフラッシュバック・データベースの実行
- フラッシュ・リカバリ領域の監視

ユーザー・エラーからのリカバリ

- フラッシュバック・ドロップによる削除された表のリカバリ
- ごみ箱の管理
- フラッシュバック・テーブルの実行
- フラッシュバック・バージョン問合せの実行
- フラッシュバック・トランザクション問合せの実行

データベース破損の処理

- ブロック破損の原因と症状
- ANALYZE、DBVERIFY を使用したブロック破損の検出
- DBMS_REPAIR パッケージを使用したブロック破損の検出
- DB_BLOCK_CHECKING パラメータの実装
- Recovery Manager によるブロック破損からのリカバリ

自動管理

- アドバイザ機能を使用したデータベース情報の収集
- SQL チューニング・アドバイザを使用したパフォーマンスの改善
- 自動 UNDO 保存チューニング機能

記憶域の管理と監視

- REDO の書込みとアーカイブ操作のチューニング
- 再開可能領域割当て機能の使用
- 事前表領域監視機能の使用
- セグメント縮小機能の使用
- 新しい表と索引サイズの見積り
- 索引のオンライン再構築
- 問合せのパフォーマンスを向上させる、様々な記憶域オプションの使用

自動記憶域管理

- ASM およびデータベース・インスタンスのパラメータ設定
- ASM ファイル名を使用した SQL コマンドの実行
- ASM インスタンスの起動、停止
- ASM ディスク・グループの管理
- ASM 記憶域へのデータベースの移行

メモリーの管理と監視

- 自動共有メモリー管理の実装
- SGA パラメータの手動構成
- 自動 PGA メモリー管理の使用

リソースの管理

- Resource Manager の設定
- リソース・コンシューマ・グループに対するユーザーの割当て
- リソース・プランの作成
- リソース・コンシューマ・グループに対するリソースの割当て

スケジューラを使用したタスクの自動実行

- スケジューラの使用による管理タスクの単純化
- ジョブとプログラム、スケジュール、ウィンドウの作成
- 類似タスクへのスケジューラ・コンポーネントの再利用
- ジョブの実行に関する情報の表示

模擬問題

【問 1】

セッションに対してタイムゾーンの設定を行う方法として正しいものを2つ選択してください。

【選択肢】

- A ALTER SESSION 文で TIME_ZONE パラメータを設定する。
- B 環境変数 NLS_LANG を設定する。
- C 環境変数 ORA_SDTZ を設定する。
- D ALTER DATABASE 文で TIME_ZONE パラメータを設定する。

【答】 A,C

【解説】

セッションのタイムゾーンを設定する方法は以下のいずれかとなります。

- ・ ALTER SESSION 文で TIME_ZONE パラメータを設定する
- ・ 環境変数 ORA_SDTZ を設定する

【問 2】

フラッシュ・リカバリ領域を使用するために設定する初期化パラメータとして正しいものを2つ選択してください。

【選択肢】

- A DB_RECOVERY_FILE_DEST
- B DB_CREATE_FILE_DEST
- C DB_RECOVERY_FILE_RETENTION_TARGET
- D DB_RECOVERY_FILE_DEST_SIZE

【答】 A,D

【解説】

DB_RECOVERY_FILE_DEST:フラッシュ・リカバリ領域の場所(ディレクトリ)を指定する

DB_RECOVERY_FILE_DEST_SIZE:フラッシュ・リカバリ領域のサイズ制限を指定する

DB_CREATE_FILE_DEST:Oracle Managed Files (OMF)の昨日を利用するために設定する

DB_RECOVERY_FILE_RETENTION_TARGET という名前の初期化パラメータは存在しません。

【問 3】

アラート・ログに記録される情報として誤っているものを選択してください。

【選択肢】

- A 表領域の作成や削除などの管理操作
- B 発生したすべてのエラーメッセージ
- C 変更した初期化パラメータの情報
- D データベース起動時に設定していた初期化パラメータの設定値

【答】 B

【解説】

Oracle Databaseの稼動中に発生したすべてのエラーがアラート・ログに記録されるわけではありません。例えば、表の作成に失敗した場合に発生するエラーは、アラート・ログには記録されません。

【問 4】

自動 PGA メモリ管理を有効にするための初期化パラメータはどれですか。

【選択肢】

- A PGA_TARGET
- B SGA_TARGET
- C PGA_AGGREGATE_TARGET
- D SGA_AGGREGATE_TARGET

【答】 C

【解説】

PGA_AGGREGATE_TARGET パラメータを0以外の値に設定すると、インスタンスに接続されたすべてのサーバー・プロセスが利用できる PGA メモリの総合計が設定され、自動 PGA メモリ管理が有効になります。

【問 5】

レスポンスが悪いアプリケーションがあります。Oracle Enterprise Manager のアドバイザを使用して調査したところ、該当アプリケーションが使用している表に対してマテリアライズド・ビューの作成が推奨されました。このとき使用した機能を選択してください。

【選択肢】

- A SQL Tuning アドバイザ
- B セグメント・アドバイザ
- C メモリー・アドバイザ
- D SQL Tuning アドバイザと SQL Access アドバイザ

【答】 D

【解説】

パフォーマンスの悪い SQL を調査するには、SQL Tuning アドバイザと SQL Access アドバイザを使用します。SQL Tuning アドバイザは個々の SQL に対して、B* ツリー索引、SQL プロファイル、統計の作成および SQL の再構築を推奨します。SQL Access アドバイザを使用すると複数の SQL からなるワークロードに基づいて、様々なタイプの索引およびマテリアライズド・ビューの作成を推奨します。

【問 6】

RESETLOGS を介した簡易リカバリの実行に関連する、アーカイブ REDO ログ・ファイル名のフォーマットを選択してください。

【選択肢】

- A %r
- B %s
- C %d
- D %t

【答】 A

【解説】

データベースは、RESETLOGS 後、全体バックアップを行うことなくオープンすることができるようになりました。RESETLOGS を介したリカバリは、次を実行した後に使用できます。

・ 不完全リカバリ

・ バックアップ制御ファイルを使用したリカバリ

%r のフォーマットを指定すると、アーカイブ REDO ログ・ファイル名に RESETLOGS_ID を含めることができます。

%t はスレッド番号、%s はバックアップ・セット番号、%d はデータベース名をあらわします。

Silver 取得のポイント



ORACLE MASTER Silver Oracle Database 10g

学習のポイント

本資格は中級データベース管理者としての知識レベルを認定する資格です。Oracle のアーキテクチャなど、データベース管理に必要な知識を理解し、Oracle Enterprise Manager 10g を使ってデータベースの環境構築および「通常時の運用管理」を一通り実施できるようになります。

試験の出題内容については、インストールからデータベース作成といった環境構築、バックアップ・リカバリ、チューニングに加えて、セキュリティ、PL/SQL、基本的な初期化パラメータの設定、UNDO の管理やロック競合など範囲が幅広くなっています。実際に Oracle をインストールしたり、Oracle Enterprise Manager 10g を使って画面の操作をすることで、データベース管理を体感しながら覚えるようにしましょう。

テスト内容チェックリスト

Silver DBA10g

Oracle ソフトウェアのインストール

- Oracle ソフトウェアのインストール
- 環境変数の設定・構成

Oracle データベースの作成

- Oracle データベース・アーキテクチャの理解
- インスタンス・アーキテクチャの理解
- DBCA を使用したデータベースの作成
- 管理フレームワークの理解

データベースへのアクセス

- SQL*Plus および iSQL*Plus を使用したデータベースへのアクセス
- データの問合せ、操作および定義

データベースの制御

- Enterprise Manager Database Control の起動・停止
- Oracle Listener の起動・停止
- Oracle データベースの起動・停止
- Oracle データベースの起動オプションと停止オプションの理解
- 初期化パラメータ・ファイルの理解
- アラート・ログの検索と表示

記憶域の構造

- 表領域とデータ・ファイルの理解
- 表領域の作成・管理

ユーザーの管理

- データベース・ユーザーの作成および管理
- ロールの作成および管理
- 権限の付与および取消し
- ユーザーのリソース使用量の制御

スキーマ・オブジェクトの管理

- 表の作成および管理
- 制約の理解
- 索引およびビューの作成
- Data Pump エクスポートおよびインポートの使用
- SQL*Loader を使用したデータのロード

PL/SQL オブジェクトの管理

- トリガーおよびトリガーを起動するイベントの説明
- PL/SQL パフォーマンスに影響する構成オプションの理解

セキュリティの管理

- 権限最小化の原則の理解
- パスワード・セキュリティ機能の実装
- データベース・アクティビティの監査

ネットワーク環境の構成

- Database Control を使用した追加リスナーの作成
- Database Control を使用した Oracle Net サービス別名の作成
- Database Control を使用した接続時フェイルオーバーの構成
- リスナー制御ユーティリティの使用
- Oracle Net Manager によるクライアントの接続の構成

パフォーマンスの監視

- オプティマイザ統計の理解および収集
- メトリック情報の表示
- パフォーマンス問題の対処

予防的メンテナンス

- 警告アラートおよびクリティカル・アラートのしきい値の設定
- メトリック・ベースラインの作成および使用
- チューニングおよび診断用アドバイザの使用
- Automatic Database Diagnostic Monitor (ADDM) の使用
- Automatic Workload Repository の管理

UNDO の管理

- トランザクションと UNDO データの関係の理解
- UNDO の監視および管理
- UNDO 保存の構成
- UNDO 表領域のサイズ設定

ロック競合の監視と解決

- ロック競合の検出および解決

バックアップおよびリカバリの概念

- データベースのバックアップ、リストアおよびリカバリの理解
- 障害の分類
- チェックポイント、REDO ログ・ファイル、およびアーカイブ・ログ・ファイルの重要性の理解
- ARCHIVELOG モードの構成
- リカバリ可能性を高めるデータベースの構成

データベースのバックアップ

- 一貫性データベース・バックアップの作成
- 非一貫性データベース・バックアップの作成
- バックアップタイプの理解
- 増分バックアップの作成
- データベース・バックアップの自動化の設定
- 制御ファイルのトレースへのバックアップ
- バックアップの管理

データベースのリカバリ

- 制御ファイルの損失からのリカバリ
- REDO ログ・ファイルの損失からのリカバリ
- 非クリティカル・データ・ファイルの損失からのリカバリ
- クリティカル・データ・ファイルの損失からのリカバリ

模擬問題

【問 1】

Data Pump の説明のうち、正しいものを全て選択してください。

【選択肢】

- A Data Pump ユーティリティでは、データベースのインポート、エクスポートができる
- B Data Pump ユーティリティでは、データベースのエクスポートのみができる
- C データベース全体をエクスポートする際には、EXP_FULL_DATABASE ロールが必要
- D データベース全体をエクスポートする際には、RESOURCE ロールが必要

【答】 A,C

【解説】

Data Pump ユーティリティを使用すると、データベースのインポート、エクスポートが可能です。またデータベース全体をエクスポートするには、EXP_FULL_DATABASE ロールが必要です。RESOURCE ロールは様々なオブジェクトを作成する権限です。

【問 2】

表領域に空きエリアが無くなった場合、自動的に拡張するための操作として正しいものは次のうちどれですか。

【選択肢】

- A 表領域をローカル管理に設定する
- B ビッグファイル表領域として表領域を作成する
- C 自動セグメント領域管理を設定する
- D 表領域内のデータ・ファイルに対して AUTOEXTEND を有効にする

【答】 D

【解説】

表領域が満杯になった場合、自動的に拡張するように設定するにはデータ・ファイルに対して AUTOEXTEND を有効にし、データ・ファイルの増分サイズと最大ファイル・サイズを指定します。

【問 3】

Oracle Universal Installer の機能のうち、正しく説明しているものを1つ選択してください。

【選択肢】

- A ネットワーク環境にエラーがないか管理する
- B インストール前に、インストールに必要な前提条件のチェックは行わない
- C ターゲット・マシン上にあるすべての Oracle ホームのインベントリを保持する
- D インストール時に、初期データベースが必ず作成される

【答】 C

【解説】

Oracle Universal Installer) では、選択した製品のインストールや構成に必要な最低要件を満たしているか、チェックする機能があります。また、構成オプションにて、「初期データベースを作成しない」を選択することができます。ただし、ネットワーク環境のエラー監視などの管理作業を行うことはできません。

【問 4】

下記のうち、ロックの競合の原因とはならないものを1つ選択してください。

【選択肢】

- A オプティマイザ統計を取得していない
- B ユーザーが変更を定期的にコミットしていない
- C 開発者が不必要に長いトランザクションをコーディングしている
- D 開発者が不必要に高いロック・レベルでコーディングしている

【答】 A

【解説】

ロックの競合は多くの場合、次の原因により発生します。

- ・開発者が不必要に高いレベルでロックをコーディングしている。
- ・開発者が不必要に長いトランザクションをコーディングしている。
- ・エンド・ユーザーが必要な場合にコミットしていない。
- ・アプリケーションで、より高いロック・レベルを必要とする他の製品と組み合わせて使用している。

【問 5】

DML 文で行った変更を管理するトランザクション制御文を全て選択してください。

【選択肢】

- A INSERT
- B ALTER
- C ROLLBACK
- D SAVEPOINT

【答】 C,D

【解説】

INSERT はデータの挿入を行うデータ操作言語 (DML) です。また、ALTER は、データベース内の既存オブジェクトを変更するためのデータ定義言語 (DDL) になります。

【問 6】

UNDO の保存期間を指定するパラメータを次から1つ選択してください。

【選択肢】

- A UNDO_TABLESPACE
- B UNDO_RETENTION
- C UNDO_MANAGEMENT
- D UNDO_GUARANTEE

【答】 B

【解説】

UNDO_TABLESPACE には、インスタンスの起動時に使用する UNDO 表領域を指定します。UNDO_MANAGEMENT には、システムが使用する必要がある UNDO 領域管理モードを指定します。UNDO_GUARANTEE というパラメータは存在しません。

Bronze 取得のポイント

ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 10g



学習のポイント

本資格はデータベース管理アシスタントとしての知識レベルを認定する資格です。リレーショナル・データベースの基本である SQL を理解し、Oracle Enterprise Manager 10g を使って効率的な運用に必要なパフォーマンス診断やチューニング、リソース管理およびリカバリに関する知識をしっかりと身につけましょう。試験の出題内容については、インストールからデータベース作成といった環境構築、バックアップ・リカバリ、チューニングまでの基本知識を理解していることが必要です。また、SQL*Plus や iSQL*Plus を使用して SQL を実行し、データベース内のデータ検索やデータ変更、表やビューなどのデータベース・オブジェクトの作成ができるよう準備しましょう。

テスト内容チェックリスト

— Bronze DBA10g

データベース管理：オーバービュー

- リレーショナルデータベースおよび SQL 使用に関する構造の説明
- Oracle DBA の一般的なタスクの説明
- データベース管理用のツール

Oracle ソフトウェアのインストールおよびデータベース作成

- Oracle ソフトウェアのインストール
- データベースの作成

Oracle Enterprise Manager Database Control および SQL*Plus の使用

- Enterprise Manager dbconsole process の起動
- Enterprise Manager Database Control へのアクセス
- Enterprise Manager Database Control のナビゲーション
- Enterprise Manager 管理権限の付与
- SQL*Plus および iSQL*Plus を使用したデータベースアクセス

ネットワーク環境の構成

- ネットワーク構成の説明
- Enterprise Manager Net Services Administration を利用したネットワーク構成
- listener control ユーティリティの使用
- Oracle データベースにアクセスするクライアント構成

Oracle インスタンスの管理

- Oracle インスタンスの起動およびシャットダウン
- Oracle インスタンスを構成するパラメータの確認
- Oracle インスタンスのメモリー管理
- Oracle インスタンス構成の確認

データベース記憶域の管理

- Oracle インスタンス構成の確認
- データベース記憶域の作成
- データベース変更に対する UNDO 管理による読取り一貫性
- データベース内空き領域の再利用

ユーザーおよびセキュリティの管理

- ユーザーの作成および管理
- 権限およびロールの付与
- ロールの作成および管理

スキーマ・オブジェクトの管理

- 表の作成および変更
- ビューの管理
- その他のスキーマ・オブジェクトの作成および変更
- Enterprise Manager を使用した表へのデータのロード

バックアップおよびリカバリの実行

- バックアップおよびリカバリのためのデータベース構成
- データベースのバックアップおよび管理
- リストアおよびリカバリ操作
- flashback drop および flashback table の使用

データベースの監視およびアドバイザの使用

- Oracle の自己診断アーキテクチャ
- アドバイザを使用したデータベース・パフォーマンスの最適化

— Bronze SQL 基礎 I

基本的な SQL Select 文の作成

- SQL SELECT 文の機能の理解
- 基本的な SELECT 文の実行
- SQL 文と iSQL*Plus(SQL*Plus) コマンドの区別

データの制限およびソート

- 問合せによって取得される行の制限
- 問合せによって取得される行のソート

単一行関数

- SQL で使用できる各種関数の説明
- SELECT 文における文字、数値および日付関数の使用方法
- 変換関数の使用

複数の表からのデータの表示

- 複数の表データにアクセスするための、等価結合および非等価結合を使用した SELECT 文の記述
- 外部結合による結合条件に一致しないデータの表示
- 自己結合を使用した表自体への表の結合

グループ関数を使用したデータの集計

- 使用可能なグループ関数の理解
- グループ関数の使用
- GROUP BY 句を使用したデータのグルーピング
- HAVING 句を使用したグループ行の制限

副問合せを使用した問合せの解決

- 副問合せのガイドラインの理解
- 副問合せの構文の記述
- 単一行 / 複数行副問合せの実行

データ操作

- データ操作言語 (DML) の各構文の理解
- データ操作言語 (DML) の実行

オブジェクトの作成および管理

- 表の作成
- 制約の作成および保守
- その他のオブジェクトの使用方法

模擬問題

【問 1】

フラッシュバック・ドロップについて、正しくないものを1つ選択してください。

【選択肢】

- A 削除された表と、依存オブジェクトをデータベースに戻すことができる。
- B 削除された表は、ページ前ならごみ箱から取り出すことができる。
- C ごみ箱から表をリカバリするとき、表に新しい名前をつけることができる。
- D 削除された表は、いつでもごみ箱から取り出すことができる。

【答】D

【解説】

表をごみ箱からリカバリできるのは、オブジェクトがページされる前までです。また、戻す際にはデフォルトの表名のほか、新しい表名をつけることもでき、依存するオブジェクトも一緒にリカバリできます。

【問 2】

ロールに関する説明で正しいものを1つ選択してください。

【選択肢】

- A ロールにはロールを付与することはできません。
- B ロールはユーザー作成時や、ユーザーを変更する時に指定します。
- C ロールにはオブジェクト権限やシステム権限を付与できます。
- D ユーザーにロールを付与しないとデフォルト・ロールが付与されます。

【答】C

【解説】

ロールはシステム権限と同様に、ユーザー作成後に付与します。また、ロールにはロール、システム権限、オブジェクト権限を付与できます。ユーザーにロールを付与しなくてもデフォルト・ロールが付与されることはありません。

【問 3】

DESCRIBE コマンドを実行すると、列名、列に対する NOT NULL 制約の有無以外に何が表示されますか。

【選択肢】

- A 表の名前
- B 列のデータ型
- C 索引の名前
- D 表の所有者

【答】B

【解説】

DESCRIBE コマンドは、表の構造を表示するコマンドです。このコマンドを使用すると、列名、データ型、列にデータを含める必要があるかどうか (NOT NULL 制約の有無) が表示されます。

【問 4】

Automatic Database Diagnostic Monitor (ADDM) について正しくないものを1つ選択してください。

【選択肢】

- A 問題の解決に役立つ推奨項目が表示される。
- B データベース全体のアドバイザである。
- C 全てのパフォーマンス問題を自発的に解決することができる。
- D 自動ワークロード・リポジトリ (AWR) のデータを元に分析する。

【答】C

【解説】

ADDM は、データベース全体のアドバイザです。自動ワークリポジトリ (AWR) に格納されたデータを調査し、予防的観点から分析を行いデータベース内の主な問題を判断しますが、ADDM だけですべての問題を解決することはできません。

【問 5】

表示するグループを制限するために使用する句は次のうちどれですか。

【選択肢】

- A DISTINCT
- B UPDATE
- C HAVING
- D ORDER BY

【答】C

【解説】

グループを制限するには、HAVING を使用します。DISTINCT は重複行を排除するときに使います。また、UPDATE はデータを変更する DML 文、ORDER BY はデータを並べ替えるときに使います。

【問 6】

SQL 文についての説明のうち、正しくないものを2つ選択してください。

【選択肢】

- A SQL 文は複数行にわたって記述することができない。
- B SQL 文では大/小文字は区別されない。
- C SQL*Plus では、各 SQL 文はセミコロン (;) で終了する。
- D 日付と文字のリテラルは二重引用符 (" ") で囲む必要がある。

【答】A,D

【解説】

SQL 文では、大/小文字は区別されません。日付と文字のリテラルは、一重引用符 (' ') で囲む必要があります。

取得者事例

ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 (CTC)
アプリケーション & ミドルウェア技術部 DB&Middleware 技術課
北條 将也 氏

Platinum10g 取得の感想

日常業務で OracleRAC の技術習得をしていましたが、Platinum 試験対策を通じて Oracle Database 全般の技術力向上に役立ちました。特に Platinum 試験は、本当に業務で役立つ技術力を客観的に判断できるものだと感じました。

これから Platinum10g を目指される方へのアドバイス

事前学習としては、参考書や製品マニュアルの活用に加え実機での学習が不可欠であると思います。試験にあたっては、仮に解けないと感じた問題であったとしても、最後まで決してあきらめない姿勢が合格のポイントだと思いました。

ORACLE MASTER Gold Oracle Database 10g



株式会社 NTT データ
ビジネスソリューション事業本部 プラットフォームソリューションビジネスユニット
IT プラットフォームサービスユニット
中井 芳明 氏

Platinum 取得のメリット

業務では自身でトラブルの解決まで対応できるようになりました。オラクルの内部構造についてわかっていないと業務がスムーズに進まないことがあるのですが、そういったところが 8iPlatinum を取得することによって理解できました。

10gGold 取得のきっかけ

8i で提供していたサービスが 9i へと移行。8i での知識がそのまま使えるわけではないため体系的に知識を習得したいと考えて、受験しました。



日本証券テクノロジー株式会社
新システム開発推進プロジェクト
我妻 佳子 氏

オラクルマスターへの期待

若い時期にある程度一つの技術に特化して業務につけるということは、他の技術を理解するうえでも非常に役に立つと思います。オラクルというデータベースに出会った皆さんが、オラクルを好きになって使っていく過程で、機能について突き詰めて学習してほしいと思います。

日本のデータベース技術者への期待

データベースにできること、できないことを知り、最終的に必要なものは何かを考えられるような人になってほしいと思います。資格を目指す過程で、全体を体系的に学ぶことが、そうした目標のために役立つと思います。資格とは、短期間で体系的に知識を学ぶことができる素晴らしい機会だと私は考えております。

ORACLE MASTER Silver Oracle Database 10g



株式会社アイネス
BP ソリューション本部
野村 大俊 氏

資格取得のメリット

資格取得のメリットは三点あると思います。
一点目は知識の底上げと整理ができたことです。プロジェクトでオラクルを使用していますが、取得にあたり学習することによって、知識の偏りが解消されました。また、幅広く知識を手に入れることができたと思いますし、仕事がしやすくなったように感じています。二点目としては、自分のスキルの証です。三点目は上流工程からプロジェクトに参画でき、同時

に保守工程まで関わられるようになり自分にとってプラスになるスキルであると思います。

受講コース

Oracle Master10g 管理ネクスト・ステップを受講しましたが、非常によかったです。受講しなければシルバー合格はなかったと思います。シルバーの範囲が広いので、3日間のコースはあっという間でし、ハンズオンもあるので楽しく学習できました。

ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 10g



松下システムソフト株式会社
戸木 佐登子 氏

具体的な学習方法や試験対策

研修テキストの内容は、すべてを頭に入れるつもりで繰り返し勉強しました。「Bronze SQL 基礎 I」試験は、「Bronze DBA10g」試験よりも比較的難しかったのですが、業務で SQL をよく使うので、実践と並行して勉強できたことが合格の要因だと思います。資格取得によって、自信をもって業務に就くことができます。

キャリアプラン

将来はシステム全体の基盤構築から運用まで対応できるようになりたいです。また、Java で画面を作るのが好きなので、どのような仕様が本当に使いやすいシステムなのかを考え、より良いものを提供できるエンジニアになりたいと考えています。



金沢工業大学

資格取得を取り入れた授業を行いだしたきっかけ

全国の大学で IT 教育に取り組んで成果を出している学校は 30 校しかない事実が解った事です。どうしたら学生に動機付けを出来るか？どうやって学生に意欲を出してもらうか？と言った問題に対して、ベンダー資格の取得を目標にしたコースを設けて意識の高い学生を中心に選抜して資格取得を目標においた授業を平成 13 年から始めたのが最初です。

行うのは当初は抵抗がありました。しかし、社会に出て使う製品を早く学生のうちから使う機会を与えることが将来学生のためになると思い採用しました。

ベンダー資格やベンダーの授業を推進している効果

やはり大学の授業の中でベンダー製品を使った授業を

「10g 入門 SQL 基礎 I」などベンダーテキストの使用

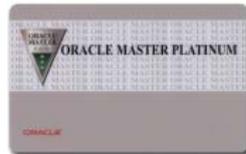
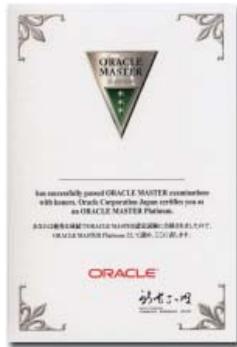
今でも従来の「データベース概論」や「SQL」の授業を行っていますが、Oracle コースを受講する学生たちには従来の延長線上と言うだけでなく、このソフトがなぜ信頼されているのか、どういう思想で作られているのかと言った様々な面を体験する事がもっと大事だと考えています。

取得特典

認定キットの進呈

認定キット内容：

全資格取得者・・・「ORACLE MASTER 認定証」、「ORACLE MASTER 認定カード」



Silver 資格取得者・・・+グローバル資格の「OCA キット」

Gold 資格取得者・・・+グローバル資格の「OCP キット」

Platinum 資格取得者・・・+グローバル資格の「OCM キット」、「OCM 特典記念品」



OCM キット
(認定カード、バッジ、認定証)



OCM 認定バッジ

その他サービス

- ▶ 弊社ホームページまたは関連サイトでの取得資格のロゴダウンロードサービス
- ▶ ORACLE MASTER 限定イベントへの参加
- ▶ ORACLE MASTER 限定情報の提供 / 専用メールのお届け
- ▶ ORACLE MASTER Platinum の方には取得者限定コミュニティ「Platinum Club」での限定サービスのご提供



http://www.oracle.co.jp/education/platinum_club/

FAQ

試験はどこで受験できますか。

ORACLE MASTER Platinum 試験は、日本オラクル直営会場（オラクルテストセンター）にて、また、その他の試験は全国のアール・プロメトリック（株）試験会場にてご受験いただけます。

受験料はいくらですか。

ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 10g および
ORACLE MASTER Platinum Oracle9i Database 実技試験
231,000 円(税込)
その他全試験
15,750 円(税込)

試験の申込方法を教えてください。

受験方法は、試験によりお申込方法が異なります。以下をご確認のうえ、お申込ください。

ORACLE MASTER Platinum 試験

日本オラクル直営会場（オラクルテストセンター）
ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 試験は直営会場のみで実施しています。開催会場は主にトレーニングキャンパス渋谷と大阪です。ホームページでスケジュールをご確認の上、オラクルユニバーシティにお申込ください。
<http://www.oracle.com/global/jp/education/certification/>

お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ
TEL : 0120-155-092

ORACLE MASTER 試験（Platinum を除く）

全国のアール・プロメトリック株式会社公認試験会場
全国のアール・プロメトリック株式会社の公認試験会場でご受験いただけます。お申込方法やスケジュール、会場の情報、受験申込書などはアール・プロメトリック株式会社ホームページよりご確認ください。
<http://www.prometric-jp.com>

資格取得に必要な試験に全て合格しましたが、こちらから連絡をしなくても認定キットが送られてくるのでしょうか。*

試験に合格された都度、試験の受験内容（受験科目、プロメトリック ID、受験日）を Web にて申請していただけます。各資格の試験にすべて合格されますと、認定に必要な条件が満たされ、自動的に資格が認定されます。資格が認定された後に認定キット配送申請を別途行っていたら、認定キットをお送りいたします。

合格した試験の申請はどのように行うのですか。*

Web 認定申請専用サイト
<http://www.oracle.co.jp/master/index.html>
の「Step1 試験申請」をクリック
↓
プロフィールのユーザ名・パスワードでログイン
↓
表示された画面の「検索条件」で
資格種別 : ORACLE MASTER
資格トラック : データベース管理運用を選択し、「検索」ボタンを押す
↓
合格した試験を選択し、画面の指示に従って受験日・プロメトリック ID・ローマ字氏名などを入力し「申請」ボタンを押す

認定キットはいつごろ届くのでしょうか。*

送付先にもよりますが、認定申請が行われてから 2 週間から 3 週間で資格が認定されます。その後、キット配送申請を行っていただきますと、数日以内にお手元に届く予定です。また、認定キットなどはすべてプロフィールご登録のご住所宛に発送しております。キット配送申請後、1 ヶ月経過してもキットが送付されない場合は、下記の情報を添えて、認定資格事務局までご連絡ください。

氏名
プロメトリック ID
資格名
住所、国、郵便番号
電話番号
有効な email アドレス

オラクルの社会貢献プログラム「OAI」または「WDP」で受講したオラクルの研修は、資格の認定条件にある、「要履修コース（1 Class/ 2 Class）の履修」の対象になりますか？

はい。対象となります。

社内で合格者が多数出ました。会社単位でまとめて認定申請できますか？

ORACLE 認定資格は個人に与えられる認定資格ですので、第三者による認定申請は原則として認めておりません。各自で認定申請していただきますようお願いします。

「要履修コース（1 Class/ 2 Class）の履修」は、一社研修も対象になりますか？

下記の条件を満たせば、すべて対象となります。
・要履修コースに指定されていること
・Oracle University や認定会場が開催している一社研修であること

（*）2006 年 10 月現在の情報です。認定申請及びキットのお届けについては変更となる可能性がございます。変更は弊社ホームページにてご案内申し上げます。

その他の研修サービス

Instructor-Led Training (集合研修)

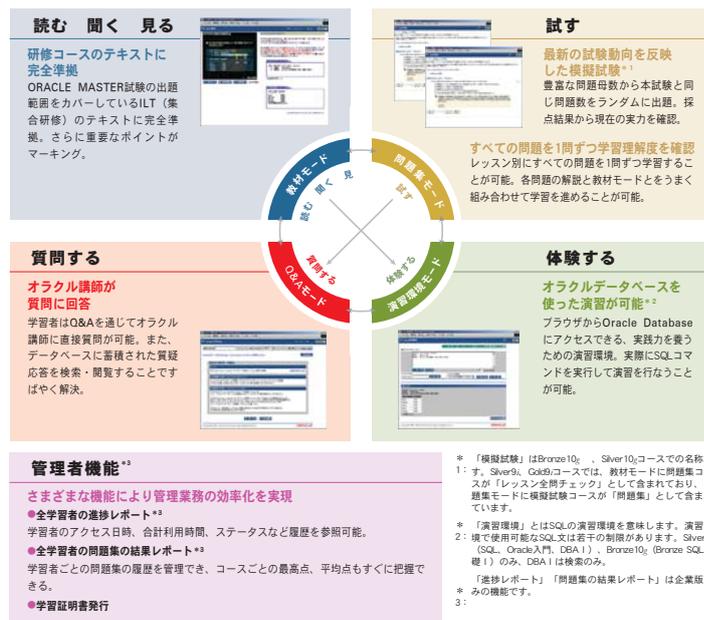
オラクルだから実現できる最新かつ高品質なデータベース・カリキュラムを全国の会場で学ぶことができます。ORACLE MASTER 対応のコースは、頻度高く開催していますので、日程調整も簡単。実績のある認定講師がみなさんの「わからない??」を解決します。また、ふんだんな実機演習により、手の動く、現場で役立つ人材へと導きます。さらに、お客様のご要望に応じて研修内容、日程、場所をより柔軟に設定できる、一社研修でも ORACLE MASTER の人材育成をご支援いたします。

e-ラーニング：プレミアム・ライブラリ

ORACLE MASTER 認定制度を目指されている方にお勧めする e-ラーニング・サービスです。「教材」「問題集」「演習環境」「Q&A」の4つのモードを活用することにより、試験対策に留まらず実践的な知識とスキルを身に付けることができます。

プレミアム・ライブラリ学習修了者の ORACLE MASTER 合格率は 80% 以上、すでに 300 社以上の企業にご採用いただいております。ブラウザさえあれば常に最新のコンテンツを学習いただけます。

機能が強化されてさらに充実！相互に連携する機能を利用して、定期コースと同水準の学習要素を満たすことが可能です。



Oracle Certified Consultant (オラクル認定コンサルタント)

このプログラムは、Oracle E-Business Suite 11i のコンサルティングに携わる方々の実力を、日本オラクルが認定する制度です。「認定試験」を実施し、技術基準を満たしたとみなされるコンサルタントに対しては、オラクルより認定コンサルタントとしての資格を付与いたします。

認定は、業務領域 (統合会計、生産管理、サプライチェーン管理、人事管理、テクニカル) ごとに行われ、コンサルタント個人に対する認定資格としてお役に立ていただけます。



日本オラクル株式会社

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1
<http://www.oracle.co.jp/>

オラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口

ORACLE
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092 **URL** <http://www.oracle.co.jp/education/>

本カタログの情報は、2006年10月現在のものです。実際の製品とは内容が異なる場合があります。

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

* Oracle、PeopleSoft、JD Edwards及びSiebelは米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の登録商標です。他社名又は製品名は、それぞれ各社の商標である場合があります。

Learn Oracle From Oracle.